

分子生物学会における男女共同参画の取組みと成果

日本分子生物学会 男女共同参画企画ランチオンWS

2011年12月13日 本間美和子

1. 他の学協会等と共に、実態データの収集・解析、提言・要望活動等を発信。
2. データを基に国の施策が検討され、支援事業が整備された。
 - 1) 大学等を中心とする、全国65か所に於ける女性研究者支援事業
 - 2) 個人を対象とする、復帰支援事業(RPD制度)等
3. 実態調査の柱として取組んだ「属性調査」から、浮び上がった課題がある。
例として、意識改革の必要性。
4. 学会として果たす役割と成すべきことは何か。

日本分子生物学会 これまでの男女共同参画への取り組み



- | | | |
|------|----------------------------|----------------|
| 2001 | 第24回年会保育室 設置WG | 大坪、菊池、池島、木村、三宅 |
| 2002 | 男女共同参画学協会連絡会 設立WGへ参加 | 荒木、大坪 |
| | 第25回分子生物学会年会 男女共同参画 | 非常勤職員の学術振興会 大坪 |
| 2003 | 第1回大規模アンケート(学協会連絡会) | 研究費申請 三宅 |
| 2004 | 提言「研究助成への申請枠拡大」 | 大坪、伊藤 |
| | 提言「子育て支援型研究員制度」 | 大坪 |
| | 公聴会「男女共同参画基本計画改訂作業」 | 特別研究員RPD枠 生物WG |
| 2005 | 提言「ライフサイエンスにおける男女共同参画の推進」 | 分子生物WG |
| | 調査報告「科学技術系学協会における女性比率」 | 分子生物WG |
| | 提言「科学者・技術者人材のさらなる活用」 | 数値目標の設定 |
| | 企画参加「第1回女子中高校生 夏の学校」 | |
| | 調査報告「学協会等における女性比率・活動の年次推移」 | |
| | 学協会連絡会 第4期幹事学会担当 | 大隅委員長 |
| 2006 | 男女共同参画WGは委員会へ昇格 | モデル事業の開始 |
| | 調査報告「RPD制度に関するwebアンケート」 | 分子生物WG |
| | 要望「女性研究者支援モデル育成事業 継続と予算拡大」 | |

| | | |
|------|--|-----------------------------------|
| 2007 | 企画参加「第1回女子中高生 関西科学塾」 学協会連絡会第2回大規模アンケートWG 調査報告ならびに要望の提出 | 篠原、大坪 大坪、松尾 |
| | 「特別研究員-RPD制度に関するw 企画参加「第3回女子中高生 夏の学校」 要望「女性研究者採用と昇格に対する数値目標の設定」 | モデル事業 加速プログラム 見学、田賀 福田他 |
| 2008 | 企画参加「第2回女子中高生 関西科学塾」 報告書「学協会連絡会第2回大規模アン 報告書「科学技術系専門職における男女共同参画実態大規模調査」 要望「女性研究者支援モデル育成事業の推進と拡充」 | 篠原 大坪、松尾 |
| | 要望「第4期基本計画、第3次共同参画基 報告書「バイオ系専門職における実態の大規模調査分析」 要望「科学技術分野での男女共同参画推進に向けて」 | 数値目標の維持 約 井関 大隅委員長 大坪、井関 |
| 2009 | 分子生物学会年会 女性比率調査第1回 | 属性の実態と 課題の提示 |
| 2010 | 分子生物学会年会 女性比率調査第2回 学協会連絡会WG「学会におけるリーダーシップ活動」 | 杉本委員長 本間 |
| 2011 | 分子生物学会年会 女性比率調査第3回 | 後藤委員長 |

男女共同参画社会基本法(1999)

男女共同参画基本計画(2001)

男女共同参画基本計画(2005)

「新たな分野への取組：
女性研究者の採用等拡大、
育児等との両立支援」(2005)

女子中高生理科進路選択支援
(2006)
RPD制度導入(2006)
女性研究者支援事業開始(2006)

第三期科学技術画基本計画(2006)

第3章(1)-⑤女性研究者の活動促進

第三次男女共同参画基本計画(2010)

「第12分野 科学技術・学術分野
における男女共同参画」

第四期科学技術画基本計画(2011)

IV-3(2)-③女性研究者活動の促進

学協会連絡会設立 (2002)
2011年現在加盟団体=68
<http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/>

第一回大型アンケート (2003)
19291件
→科学技術分野における女性の数と
持続の必要性

女子(中)高校生夏の学校開始 (2005)
女性比率調査開始 (2005)
各学協会活動調査開始(2005)

第二回大型アンケート (2007)
14110件

女子中高生のための関西科学塾開始
(春の学校) (2008)

第三回大型アンケート (2012)
目標 40000件

年会保育室 設置WG

学協会連絡会 設立WG

大規模アンケートWG

「研究助成への申請枠拡大」

「子育て支援型研究員制度」

「男女共同参画の推進」

幹事学会担当

男女共同参画委員会の設置

RPD制度webアンケート

「特別研究員-RPD制度」

「共同参画実態大規模調査」

大規模アンケートWG

「男女共同参画推進に向けて」

「基本計画改訂作業への意見」

「バイオ系専門職の実態」

年会 女性比率(属性)調査

「学会でのリーダーシップ活動」

(青字:提言、要望、報告等の活動)
(赤字:アンケート等、調査活動)

| RPD採用者(5分野) | <u>分生会員数/採用数</u> | |
|-------------|------------------|----------------|
| | 平成23年度 | 平成22年度 |
| 工学 | 0/2 | 0/2 |
| 農学 | 1/4 | 0/5 |
| 化学 | 0/1 | 0/1 |
| 生物学 | 1/9 | 2/6 |
| 医歯薬学 | 3/10 | 2/8 |
| 合計(5分野) | 5/26 | 4/22 |
| 合計(採用者全体) | 5/46 (10.9%) | 4/43 (9.3%) |

年会発表者 属性調査



”学会のシンポジウムでの発表者やオーガナイザーの女性の比率は
学会員全体における比率と比べて低いのではないだろうか？”

日本分子生物学会男女共同参画委員会はこのような疑問をもち、2009年度から年会発表者の演題カテゴリごとの属性調査を行っています。今年度は一般演題からの口頭発表希望者割合の集計も行いました。

調査方法

- 1) 日本語でのオンライン演題登録時の記載事項の一部として、性別（男、女、選択なし）、職階、年齢層（5歳きざみ）を選択式の項目として設けた。
- 2) スピーカーを兼ねないオーガナイザーには個別にメールを送り調査した。

演題登録者数

一般演題（日本語）：3233題
ワークショップ（WS）：220題、シンポジウム（日本語）：129題／計349題

回答率

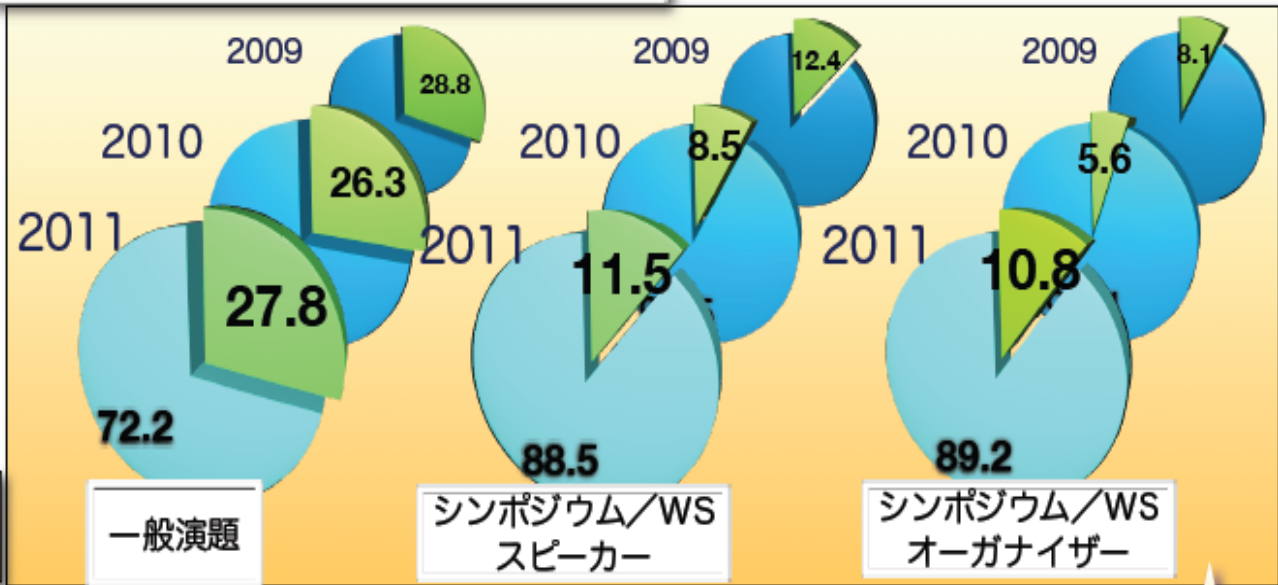
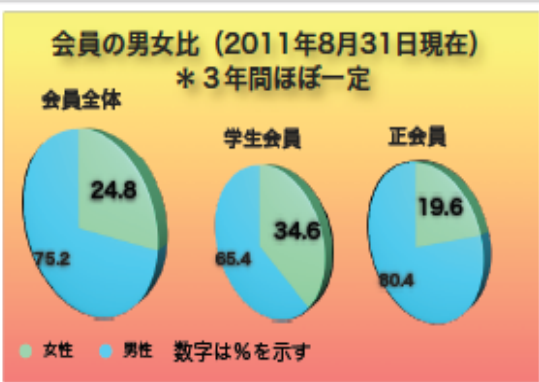
一般演題：95.4%
スピーカー(指定)：94.6%
オーガナイザー：87.8%

MBSJ2011開催概要

会場：パシフィコ横浜
会期：2011年12月13日-16日
演題登録期間：2011年8月1日-31日



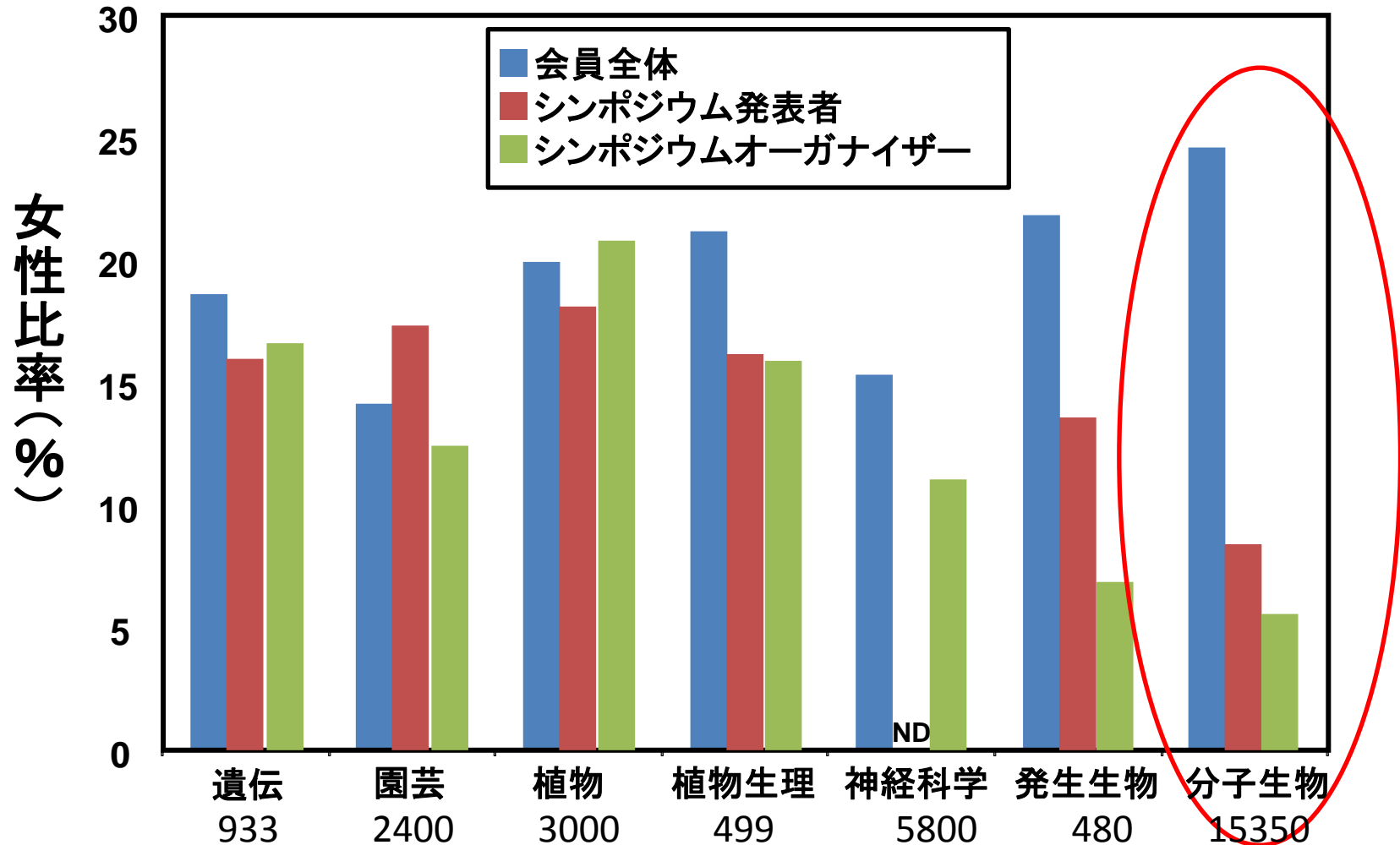
集計結果1 カテゴリ別男女比



学会員全体と一般演題発表者の男女比は同等である一方、シンポジウム/WSのオーガナイザーやスピーカーは女性の割合が低く、正会員の女性率（19.6%）と比較してもその半分程度であった。しかし、昨年と比較すると女性の割合が増えており、積極登用よびかけの効果が示唆された。

学会でのリーダーシップ活動における女性比率 学会間の比較

第8期男女共同参画学協会連絡会 学会を含むリーダーシップ活動における機会均等 ワーキンググループ資料(2010)



シンポジウム発表者・オーガナイザー等の
リーダー的女性の比率は、学会毎に異なる

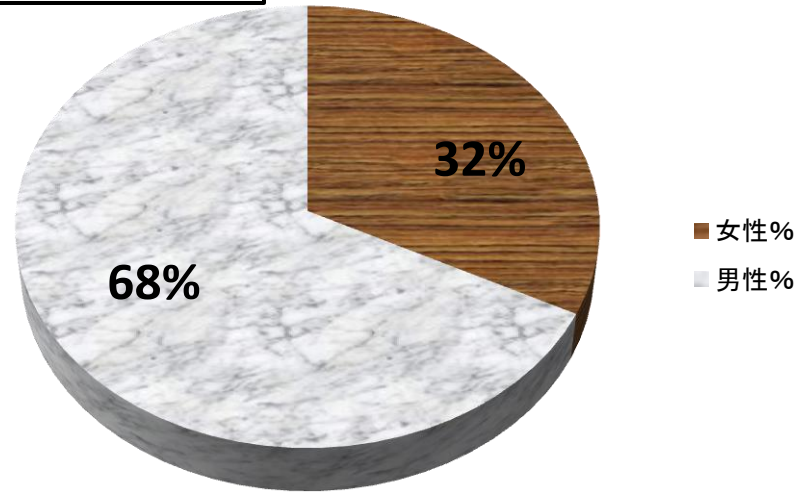
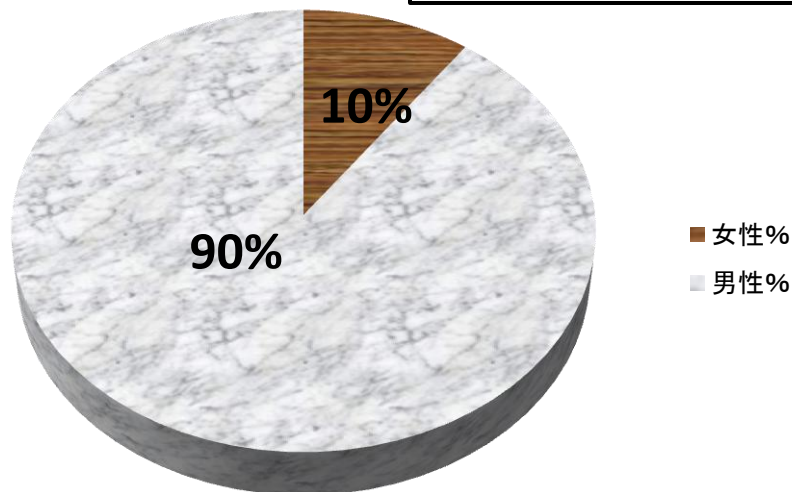
学会でのリーダーシップ活動における機会均等 女性比率を上げるには

第8期男女共同参画学協会連絡会 学会を含むリーダーシップ活動における機会均等 ワーキンググループ資料(2010)を更新

男性のみオーガナイザー

女性入りオーガナイザー

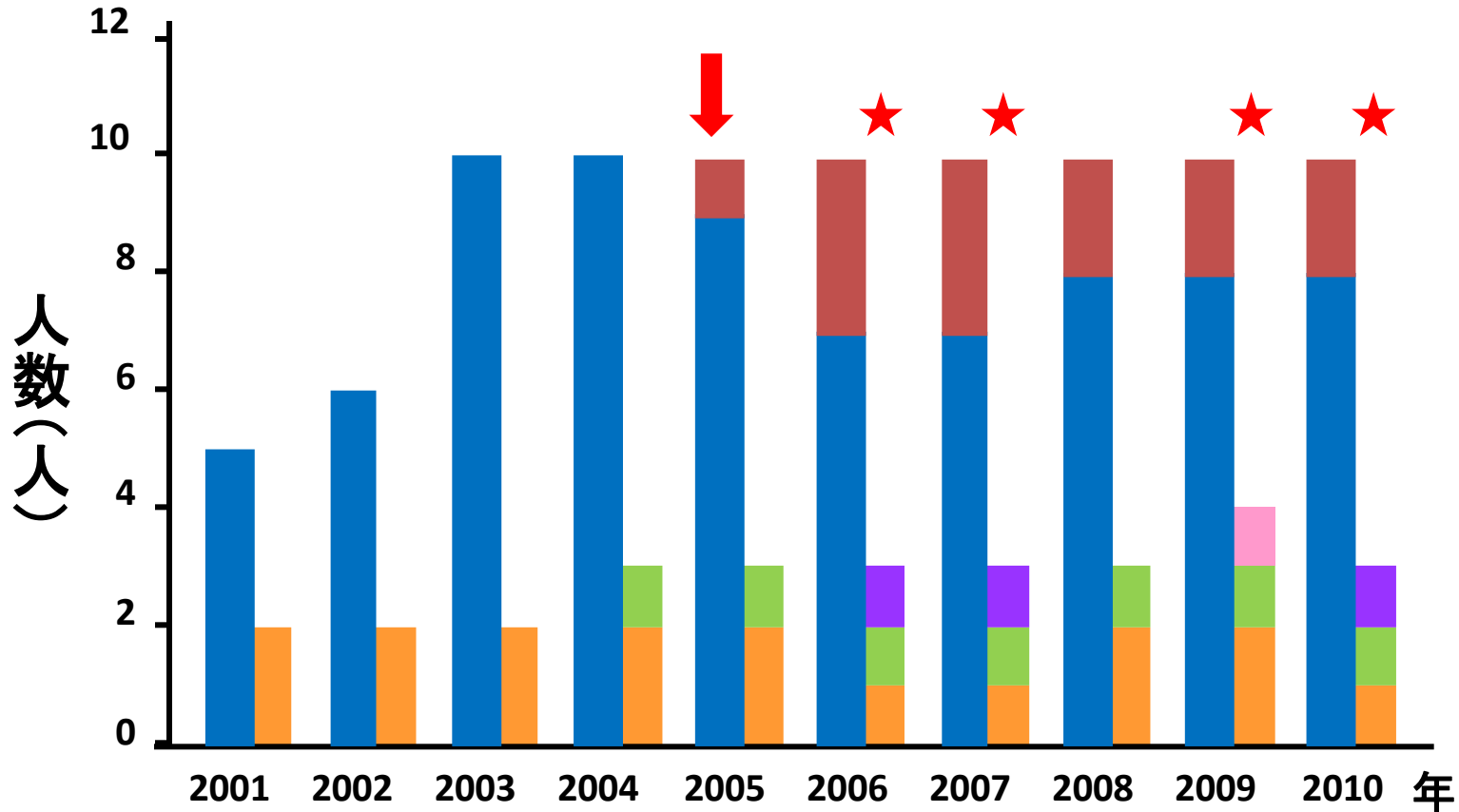
■ シンポジウム発表者(女性)
■ シンポジウム発表者(男性)



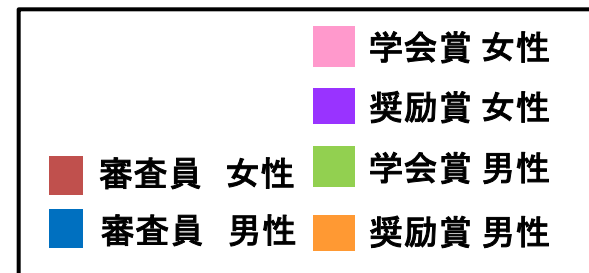
女性オーガナイザーがいないと
女性スピーカーが選ばれにくい

学会賞・奨励賞の女性受賞者数と審査員 女性比率 (日本植物生理学会)

第8期男女共同参画学協会連絡会 学会を含むリーダーシップ活動における機会均等 ワーキンググループ資料(2010)

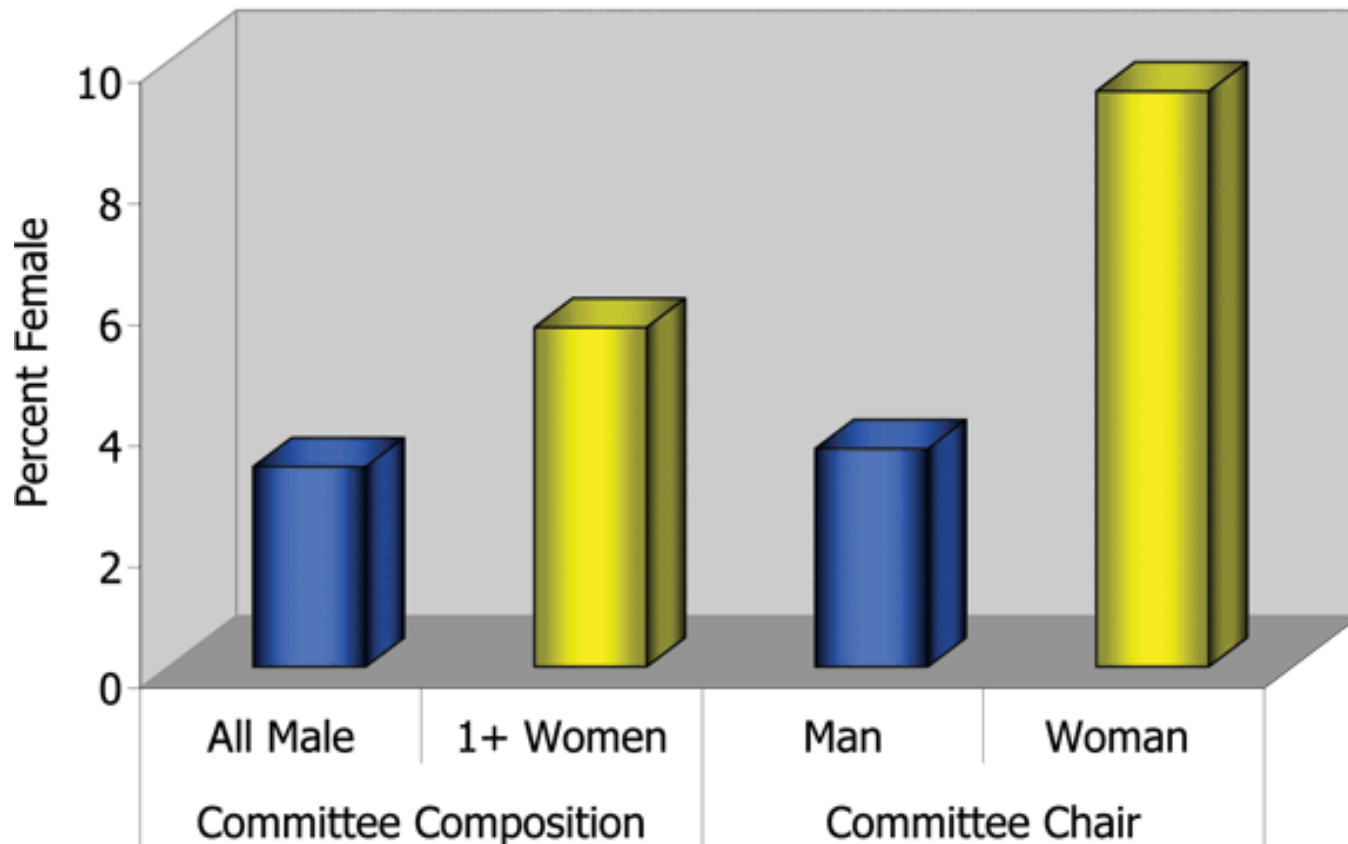


女性審査員の登場後、
初めて女性受賞者が誕生した



学会賞・奨励賞の女性受賞者数と審査員 女性比率 (American Physical Society)

Figure 1: APS Award Recipients by
Committee Composition and Chair, 1997-2009



*J. American Physical Society (2009)
By Anne E. Lincoln, Stephanie Pincus, and Vanessa Schick*

学会でのリーダーシップ活動における機会均等 まとめ

第8期男女共同参画学協会連絡会 学会を含むリーダーシップ活動における機会均等 ワーキンググループ資料(2010)を改編

•女性のvisibilityを上げることが 女性リーダーの育成につながると考えられる

•女性が選ぶ側にいないと女性が選ばれにくいという無意識のバイアスがあると考えられる

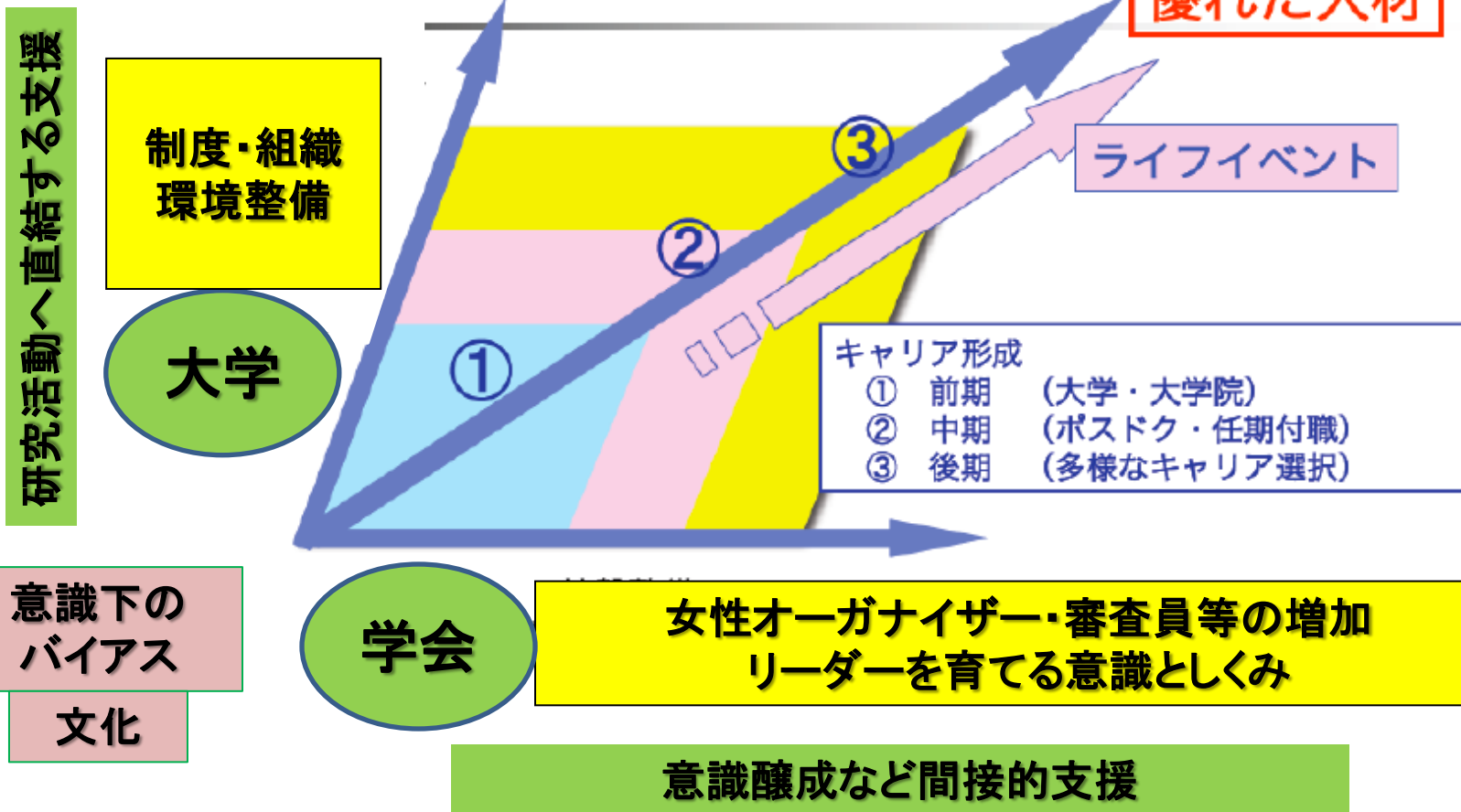
 方策として…

- 1) 主催者側に、より多くの女性を登場させる
- 2) 無意識のバイアスがあることに気付く

学会として果たす役割

自然科学系分野の女性研究者を増加させるために

学会で認められることは大学でも認められること



日本分子生物学会

過去の男女共同参画企画のテーマ



- 2002 男女共同参画ネットワークづくりに向けて 大坪、荒木
- 2003 キャリア形成とライフサイクル 伊藤、大坪
- 2004 女性研究者がPIIになるには？
「ガラスの天井」はどこにあるのか 伊藤、赤林
- 2005 企業の女性研究者・技術者を取りまく環境 大住、篠村
- 2005 キャリアパスの多様性を享受する機会を得るには
採用する側と採用される側の希望 桑、田賀
- 2006 研究と子育ての両立をめざして 松尾、金井
- 2006 Career development of female researchers 大隅、大坪、後藤
- 2007 アカデミアにおいて研究者人生を楽しむ 大隅、本間
- 2008 進化していく男女共同参画 大隅、本間
- 2009 女性リーダーが増えるには何が必要か 杉本、篠原
- 2010 男性の視点から見た男女共同参画 杉本、篠原
- 2011 全員参加の生命科学研究を目指して 後藤、塩見

-意識改革-